

平成 26 年 8 月 11 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉 井 信 光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：取締役 執行役員 経営管理部長
鷲本 晴 吾
電 話 番 号 : (0 3) 5 7 3 3 - 2 1 2 1

平成26年 9 月期連結業績予想に関するお知らせ

従来未定としておりました平成 26 年 9 月期の連結業績予想について、下記の通り算定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成26年 9 月期連結業績予想（平成25年10月 1 日～平成26年 9 月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回予想 (B)	3,760	550	590	770	5.77
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (25 年 9 月期)	1,603	△31	88	182	152.06

(公表の理由)

当社は、成長スピードを上げ収益の安定性と事業ポートフォリオの厚みを増すべく、第 2 四半期に岡山建設(株)、(株)ユニハウス等を連結子会社化しておりますが、第 3 四半期にグループ各社間のビジネスシナジー創出に向け事業運営体制の整備を進めて参りました。これを踏まえ当社は事業計画を策定中であったため、平成26年 9 月期の連結業績予想については、現在まで未定とさせていただいておりましたが、今般、当連結会計年度の一定の見通しが可能となりましたので、連結業績予想を算定いたしました。

当社グループでは現在、投資収益獲得のための投融資案件の「仕込み」と、業務受託による収益獲得を並行して推進しております。再生可能エネルギー等の公共財関連案件においては、アレンジメントと投融資を組み合わせた案件の当期中の収益化を企図しておりますが、期中の組成については保守的に見積っております。なお、当連結会計年度に連結した子会社が行う不動産事業、建設事業より、売上高は大きく増加する見込みであります。

業績予想の算定にあたっての主なポイントは下記のとおりであります。

- ① 投資銀行事業では再生可能エネルギー関連の投資、アレンジメント案件が増加
複数の大型のアレンジメントと投融資を組み合わせた案件は現在組成中ではありますが、
当期中に組成しエグジットできるかが不明であるため、業績予想には反映させず、保守
的に見積っております。太陽光発電事業に係るアレンジメント案件は、実績を積むこと
により案件組成のノウハウが当社グループに蓄積されてきており、引合いも増加して
おります。有力なEPC（設計、調達、建設）業者との協働や当社の一時的なプリンシ
パル投融資の活用、人員の追加投入などにより、案件組成を促進し、手数料収入の拡大を
図っております。
- ② 不動産事業の推進（戸建用地取得、開発、販売）
不動産事業において、第3四半期に戸建用地の取得を進めており、第3四半期末の仕掛
販売用不動産と販売用不動産の合計額は6.5億円となっております。なお第4四半期に入
り、これらの売却と更なる取得を進めております。
- ③ 建設事業は堅調な推移の見込
工事受注は順調に推移しており、通期では黒字化を見込んでおります。また、建設用仮
設資材置場を期中に譲渡する契約を締結しており、特別利益として固定資産売却益104百
万円を計上する見込みであります。
- ④ ライフサイエンス企業、情報通信（ITC）企業対象のファンド投資による損益は見込まず
FinTech GIMV FUND, L.P. (FGF)における投資先のエグジットの見込みはあるものの、ファ
ンドの決算（12月決算）に基づき当社の損益に取込むため、当期業績への影響は見込
んでおりません。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので
あり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。

以 上